



退官にあたって



学長 湯浅 繁一

平成20年4月に学長職を拝命して以来、本年3月末で2期6年間の任期が満了いたしました。この間、教職員の皆様方をはじめ関係各位には一方ならぬご支援・ご協力を賜り、誠に有難うございました。

私が学長に就任しました平成20年は、大学の学年進行も完了し、これからある程度大学の裁量で教育研究機能の強化が図れるという時で、それまでの基本方針に従い、大学院修士課程の設置、看護学科の定員増、助産学専攻科の開設などを進めてまいりました。また、就任後間もなくの5月には、香川大学医学部、徳島文理大学薬学部との県下3大学連携事業の話があり、大学の将来を思えば、この機会を逃してはならないと考え、関係各位のご理解のもと、連携事業の一翼を担うこととなりました。この事業は3年間の文科省の支援期間が過ぎた今日も、教員や学生を中心にした様々な交流事業が継続して行われており、本学の基本理念にある幅広い教養と豊かな人間性を有した人材育成に、少なからず貢献しているものと考えています。

また、少子高齢化による18歳人口の減少や大学のユニバーサル化が進む中、広報活動の一環として、大学広報誌HANDsを発刊するとともに、県立大学として地域との連携を強化すべく、平成23年4月には学内に地域連携推進センターを設置しました。現在、地域連携推進センターでは、地域の方々を対象にしたいきいき健康広場や保健医療従事者のための生涯学習講座などを開催していますが、今後は教員たちが個別に行っている地域との様々な共同研究や地域支援活動等を当センターで集約し、これらの活動がより効果的に行われるよう支援していく必要があります。

また、看護職者や臨床検査技師などの保健医療従事者の教育は、医学医療の進歩や複雑多様化する社会のニーズなどに対応するため、近年ますます高度専門化する傾向にあり、本学においても、平成25年度には大学院修士課程に精神看護分野の専門看護師養成課程を設置するとともに、大学院博士後期課程についても現在設置準備を進めているところです。

このように学長に就任して以来6年間、皆様方の多大なるご支援のもと、教育研究機能の強化や地域連携活動の推進などに取り組んでまいりましたが、本学も今年で開学10年という節目の年を迎え、次の10年、20年に向けて大きく羽ばたくための基盤づくりに多少なりとも貢献できたのではないかと考えております。この後は新たな体制のもと、地域の皆様方に愛され、そして地域になくてはならない大学として、これまで以上に地域の保健医療の向上に寄与されることを祈念して退官のご挨拶と致します。

卒業式・修了式 3月14日(金)



4年を振り返ると、課題や実習等が忙しくつら
いと思った時期もありましたが、苦楽を共にする仲
間とともに励まし高めあうことで、大変ではありま
したが充実した日々を送ることができました。特に
4年次は卒業研究・実習・国家試験と多忙な中
でも、クラスのメンバーと共に橄欖祭で合唱を行えた
ことは大きな思い出です。リーダーを中心に、時間
をみつけて集まり練習することで当日は、満足いく
合唱を披露することができました。また、多くの先
生方や大学職員等の方々から講義や指導を受け、
自分達は様々な人達に支えられ学んできたことを
実感しました。本当にありがとうございました。

卒業後の私達の進む道は、進学・就職とそれぞれ
違いますが、本学で過ごした4年間の経験を忘れず
に頑張っていきたいと思います。

看護学科 4年 山西 美穂

4年間の大学生活の中で、講義や実習、行事を
通して多くの事を学ぶ事が出来ました。その中で
苦楽を共に出来る友人や周
囲の方々の存在が一番の支
えになりました。

これからは、自分が誰か
を支えていけるような医療
従事者になれるよう努力し
ていきたいと思います。

それぞれ新しい道へと進
みますが、みんなが充実し
た毎日を送れるように祈っ
ています。

臨床検査学科 4年 渡邊 徹



公開講座 「健やかに生きよう」

11月15日(金)に、今年度第2回目の公開講座「健やかに生きよう」
が本学において開催されました。テーマは本学、佐藤 功副学長による
「あなたの肺は健康ですか」と眞鍋紀子教授による「難しいけれど大事
な話～血栓とは?～」の2講座で、地域の57名の方と本学看護学科1
年生の69名が受講しました。「時代に即したテーマだったと思います」
「具体的事例や解説があり、よかったです」「健康維持に大変役立つと
思いました」などの感想をいただき、好評のうちに終了致しました。

平成26年度第1回公開講座は8月下旬に開催予定です。興味のある
方はぜひご参加ください。詳しい内容は大学ホームページや県広報誌
などでご案内する予定です。



橄欖祭(大学祭)

平成25年10月19日(土)

[大学祭実行委員長] 臨床検査学科 2年 布施 竣介

第14回橄欖祭のテーマは「瞬く」でした。このテーマには、今を精一杯生きるという意味が込められていました。このテーマのように、大学祭当日は地域の方々や先生方、学生みんなが同じ時間を共有し、一瞬一瞬をよりよいものにできたと思います。大学祭の準備は今までに経験したことのないことばかりで、不安になることも多くありました。しかし、さまざまな人に助けられ無事開催することができました。本大学祭に関わってくださった全ての方々に、心から感謝を申し上げたいと思います。



先輩の声

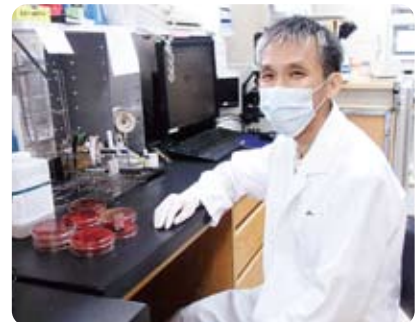
社会医療法人生長会 府中病院 畑中 重克

大学院を卒業してもう3年が経とうとしています。修士論文をまとめたものがようやく雑誌に掲載され、自分としてはこれで本当に学位をいただいた実感がします。

大学院で収穫できた事はたくさんあります。自分の専門分野をさらに深く学べた事、看護学分野の事も学べた事、英語論文へのアレルギー症状が軽くなった事、計画を立てて一つの課題を達成するプロセスを体験できた事など・・・です。

しかし、最大の収穫は様々な人に出会えた事です。教員をはじめ同期や後輩の学生は性別・年齢層も様々で、バックグラウンドも多種多様でした。ここで多くの人の影響を受け、ともすれば凝り固まっていた自分自身の考え方を見つめ直せたと感じています。特に同期は卒業した現在でも私にとってはいい刺激となったり、支えとなったり、励みとなったり・・・。

今後もある時は切磋琢磨しながらこの関係を大切にしていきたいと思います。



研究発表会(看護学科)

看護学科 4年 森下 実紗輝

大学卒業にあたり、個々で疑問や関心をもった看護領域について学びを深めるため看護研究に取り組みました。初めての研究で上手くいかないことが多かった中、先生方や仲間を支えられ、無事に研究を完成させることができました。この学びを今後の糧として生かし、保健・医療・福祉のスペシャリストとして邁進していきたいと思っています。



私たち10名が優秀賞に選ばれました!

教育講演会(臨床検査学科)

臨床検査学科 3年 鈴木 綾乃

教育講演会では、日本臨床検査技師会会長 宮島喜文先生による「これから目指す臨床検査技師像」についての基調講演を受けました。また、臨床の現場でご活躍中の先生方からキャリアアップについて、多くの貴重な助言をいただきました。私も大学卒業後は、臨床検査技師として働いていく中で、自分の専門分野について深く学び、認定資格を修得することで、チーム医療の現場の最前線で活躍できる技師になりたいと感じました。





三木 佳子
看護学科准教授
専門分野
在宅看護学

来る超高齢化社会から期待されている在宅看護学を担当しています。長い間、創傷・ストーマ・失禁ケアの構築に取り組んできました。これらは日常生活の底辺にあるケアです。今は全人的生活支援であるセクシュアリティを探究しています。また、看護には創造力が大切、創造力を具備した看護師を育成するための効果的な教育方法の検討も研究テーマです。座右の銘は「進まざるは後退」です。皆様、ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。



秋山 佳織
臨床検査学科助教
専門分野
生理機能検査学

私は本学の前身である香川県立医療短期大学および本学大学院修士課程の卒業生であり、卒業後は医療機器メーカーや私立病院、香川県立中央病院で勤務してきました。生理機能検査学を中心として学生の皆さんとかわっていくことになります。誠実で向上心を持ち、現場で活躍することのできる人材の教育を目指していきたいと考えています。趣味は読書・旅行・掃除です。どうぞよろしくお願いいたします。

著書紹介

臨床検査学科 教授 **新見 道夫**

「肥満の科学 —その基礎と臨床—」

新見 道夫 著

本書では、食欲調節の分子メカニズム、肥満症の考え方やメタボリックシンドロームの基礎と臨床についてできるだけ分かりやすく、具体的にかつ実際に解説した。本書が、肥満の臨床・研究に携わっている方々、医療系の学生などの参考書になれば幸いです。



ISBN 978-4-907027-13-1
A5判 103頁
定価(1,600円+税)
2013年1月6日発行
丸善京都出版サービスセンター

看護学科 教授 **國方 弘子**

「自分を好きになるためのワークブック

～シートを使って進める自尊心回復グループ認知行動看護療法～

國方 弘子 著

ほどよい自尊心をもつことは、人間としての品位を保ち、誘惑や困難に打ち勝ち、自分を高めることにつながる。本書で紹介するワークは、スキーマ(心のくせ)の修復に重点を置いて設計した認知行動療法を基盤とし、ACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)の考え方、さらにはレクリエーション活動など看護の要素と笑いや呼吸法を取り入れたものである。ワークは、グループでも個人でも取り組むことができる。



ISBN
978-4-86186-562-6
B5判 109頁
定価(1,500円+税)
2013年9月8日発行
ふくろう出版

●お知らせ

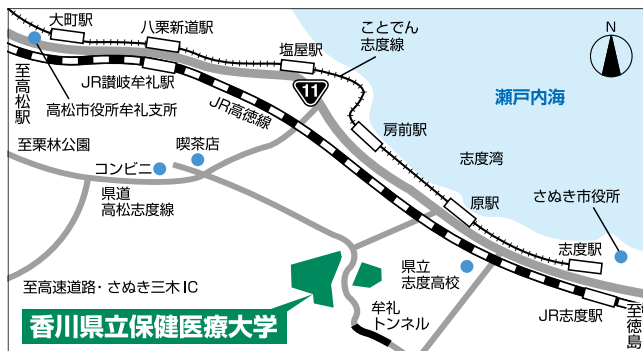
- ◆入学式 4月4日(金)
- ◆オープンキャンパス 7月下旬予定
- ◆公開講座 8月下旬・11月中旬予定
- ◆橄欖祭(大学祭) 10月18日(土)
- ◆いきいき健康広場 5月30日(金)・8月・11月・1月(予定)



香川県立保健医療大学

KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1
Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202
E-mail: hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/



◆学校への経路

- 【西方面から】高松から車で30分
ことでん志度線・原駅下車徒歩10分
高松東ICより車で10分
- 【東方面から】JR高徳線・JR志度駅から車で5分
志度IC(または、さぬき三木IC)より車で10分

タイトルのHANDsは“高い専門的医療技術により、尊い生命を支える人間愛に溢れた温かい手”を意味しています。